

## 〈特集のねらい〉

放送メディアは、この100年、さまざまな技術の進展とともに大きく姿を変えてきた。技術の発達は、新聞や雑誌といったマスメディア全体に変化をもたらしてきたが、特に放送では、送り手、受け手の双方ともその影響を強く受けてきたと言えるだろう。ラジオ放送の誕生、テレビ放送の開始、白黒テレビからカラーテレビへの移行、衛星放送の開始、テレビの高品質化、放送のデジタル化など、放送をめぐるさまざまな変化の背景には、技術の進歩が存在していた。『放送メディア研究』第17号では、2025年の放送開始100年を前に、放送技術の発達に焦点を当て、それが放送をどう変えたか、さらには社会に何をもたらしたかを考察する。

本特集ではまず、第Ⅰ部「ラジオの時代」、第Ⅱ部「テレビの発達」で、おおむね時系列に沿って放送技術の進展について振り返る。そこでは、各時代の放送にどのような技術的な課題が存在し、それに対してどういった対応がなされたのか、また、それが放送にどのような影響をもたらしたかを検討する。そして、第Ⅲ部「放送技術の最先端」で、2000年代以降に焦点を当て、放送をめぐる技術開発の最新動向を紹介する。そのうえで、第Ⅳ部「技術開発の未来像」で、技術開発の過程で描かれた未来像とその帰結を検討し、それを踏まえて、今後の放送メディアの将来像について考えることにしたい。

もっとも、放送を支えた技術は多様であり、網羅的に取り上げることは難しい。また、戦前からの放送技術の発達状況について

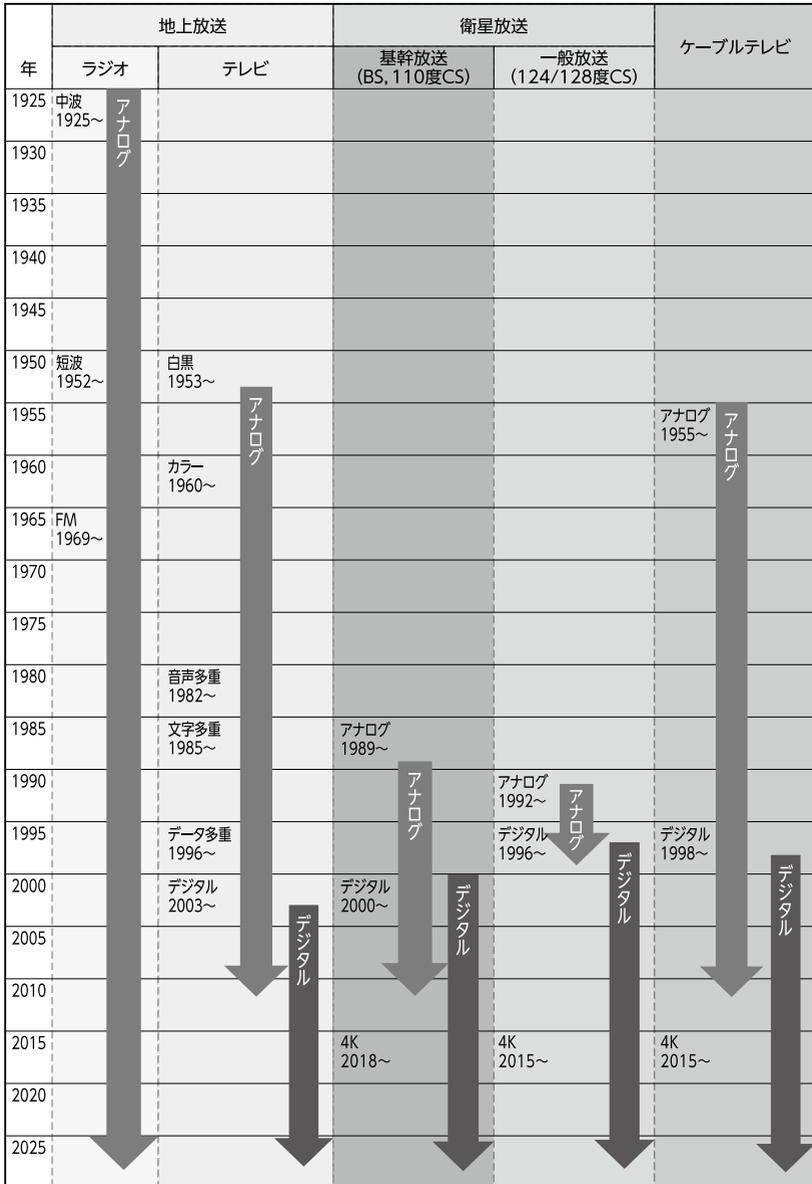


は、すでにNHK編『放送五十年史』（1977年）や同『20世紀放送史』（2001年）などに概要がまとめられており、技術開発そのものについては、NHK放送技術研究所などによる詳細な研究史が作成されている。このため、本特集では、それぞれの時代で焦点となった技術を重点的に取り上げ、各執筆者が専門とする分野を中心に議論を展開してもらうことにした。ここでは、技術開発そのものに加えて、その時々番組の状況や、放送をめぐる政策動向、社会の動きなども踏まえ、幅広い視点から技術についての考察がなされている。

放送が発達していく過程では、成功し普及していった技術もあれば、高い完成度を持ちながら十分には広がらなかった技術もある。その違いがどのようにして生まれたのかについても本特集では考える。さらに、近年では、インターネットやスマートフォンの急速な普及、SNSや動画配信サービスの広がりによって、メディア環境は大きな変化を続けている。放送界がそうした技術をどのように取り入れ、環境変化に対応してきたかについても検証していきたい。そうした考察が、放送メディアの将来を展望するうえでの手がかりになればと考えている。

『放送メディア研究』第17号 編集担当

## 日本の放送メディアの発達



NHK編(2001)『20世紀放送史』, 総務省「放送を巡る現状」(2021年11月)を参考に作成。